

「平成23年度普及に移す成果」

5月どりネギ栽培ではトンネルの部分換気で抽苔を抑制できる

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

5月どりネギは晩抽性品種の「春扇」や「羽緑一本太」を用い、トンネル栽培とします。生育初期はトンネルを密閉しますが、2月下旬からトンネル内の気温25℃を目安に換気を始めます。トンネルを部分的に開閉すると、抽苔の発生が慣行のトンネル裾開放より減少し、収穫率が高まります。

晩抽性品種の抽苔性

晩抽性品種「春扇」や「羽緑一本太」は、従来の「夏扇3号」や「ホワイトタイガー」より抽苔発生率が低く、昼温を25℃（夜温7℃）で管理すると抽苔発生はみられません。

品 種	昼温の違いが抽苔発生に及ぼす影響	
	抽苔発生率 (%)	
	昼温 (°C)	
	15.0	25.0
春扇	25	0
羽緑一本太	17	0
夏扇3号	92	75
ホワイトタイガー	100	83

葉鞘径が8mm以上の苗を夜温7℃で60日間処理

トンネルの開口方法

慣行栽培では2月下旬からトンネルの片側を高さ20cmで全体を開口（写真：右）し、開け放しにしますが、部分換気（写真：左）ではトンネル内気温25℃を目安に、片側を5mおきに、裾幅2m、高さ20cm程度に開け、夜間は閉め切りにします。



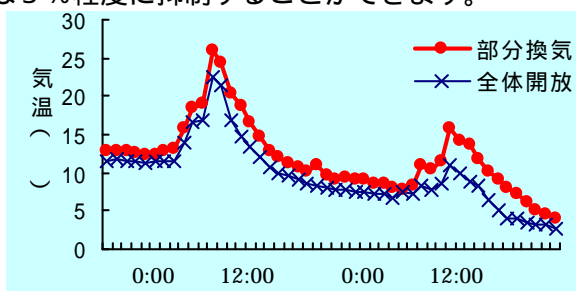
部分換気



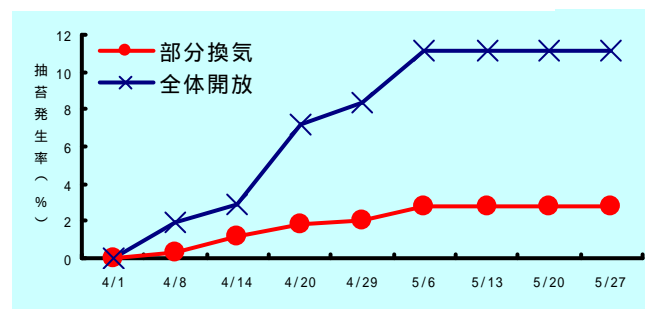
全体開口（慣行栽培）

トンネル内の温度と抽苔発生率

トンネルを部分換気とすると、全体開口より昼温が高く、夜間閉め切ることによって開放より夜温も高く推移します。その結果、開口では抽苔発生率が11%にも及ぶことがあるのに対し、部分換気では3%程度に抑制することができます。



トンネル内温度の推移



抽苔発生率の推移

部分換気の留意点

春先は気候の変動が大きく理想的な温度を保つことは難しいのですが、温度計でトンネル内の温度を確認しながら、換気管理を行うことが大切です。

< 問い合わせ先；園芸研究所野菜研究室 Tel 0299(45)8341 >